あのときの常呂・写真館

VOL 67

（１９７５年）

昭和５０年９月２１日　第１回町民いこいの日

▶町民がこぞって休みを取り、秋の一日を自然の中で過ごすために、「町民いこいの日」の第１回が昭和５０年９月２１日、イワケシュ牧場を会場に行われました。この第１回は、残念ながら常呂図書館が所蔵している「広報ところ」には記載がありませんが、珍しい催しだったのか、北海道新聞・朝日新聞・毎日新聞・北海タイムスの地方版に情報量の差がありながら掲載されています。

▶それらをまとめると、一部の人にしか知られていないイワケシュ牧場の自然の中で、町民全体の親睦を図るために町が企画した催しで、当日は午前１０時頃には雨が上がり、役場から８キロ離れたイワケシュ牧場をめざして歩く人、町が用意したバス４台に分乗して向かう子どもたちなど家族連れが１，２００人参加しました。

▶バーベキュー用に町が牛１頭と豚２頭を準備、常呂漁協がたくさんのホタテを、常呂町農協からは牛乳が提供され、牧場内の小川に鯉と金魚４００匹を放してのつかみ取り、野菜の即売会やフォークダンスなど、食べて遊んで交流を深める一日となりました。

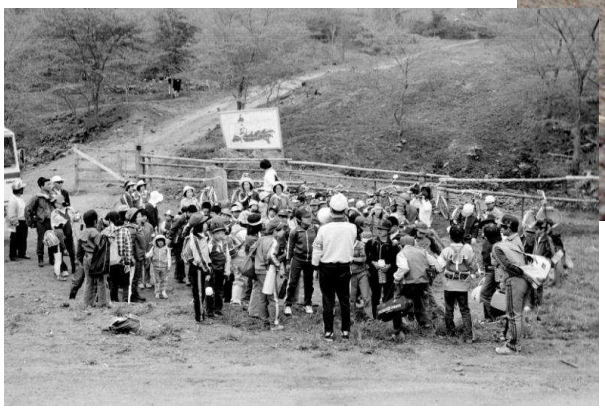
＊前のページを含め、これらの写真は第１回町民いこいの日のようす。

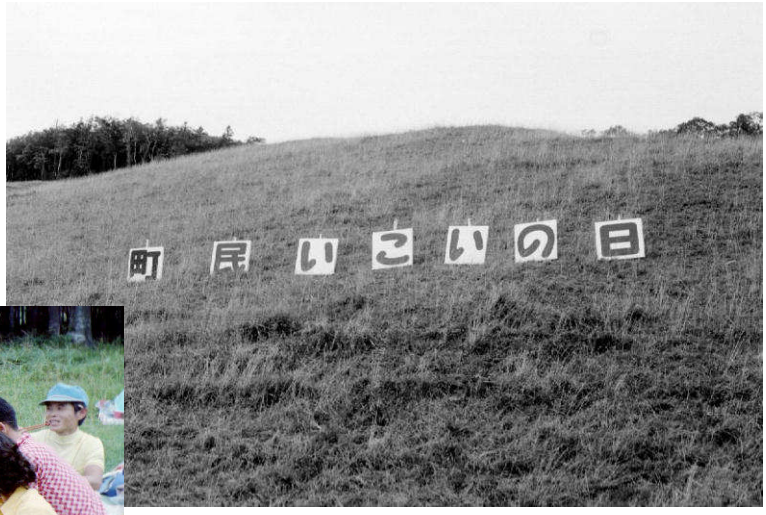
▶この町民いこいの日は、昭和５３年まで続き、５４年からは「ふるさと祭り」に模様替えし、町民交流からお祭りへと変わっていきます。

＊昭和５３年１２月開催の「町を語る集い」の中で、住民参加のお祭り「ふるさと祭り」の実施が決定。従来、イワケシュ牧場を会場として行っていた町民いこいの日の行事をふるさと祭りのメイン行事としてすることになったものです。

＊この当時、春の「町民ピクニック」と秋の「町民いこいの日」という、子どもからおとなまで自然の中で過ごす大きな行事が４年間あったことになります。

＊紹介している写真は、昭和５２．５３年の町民いこいの日のもの。広大なイワケシュ牧場のようす、バスなどを利用して集まった数多くの子どもたちや家族の姿が印象的です。





＊家族でバーベキューを楽しむ姿がとても楽しそうです。

＊小川をせき止め、放された魚をつかまえる子どもたちの多さに驚きます。

＊昭和５３年には、農協からトウモロコシが提供されました。